

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2020

事業所番号	2693100022		
法人名	株式会社 キャビック		
事業所名	ケアホーム すいーとハンズ向日(2階)		
所在地	京都府向日市上植野町下川原46-4		
自己評価作成日	R2、11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	令和2年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧西国街道の旧家が並ぶ地域にあり、竹林に隣接する静かで落ち着いた環境に建てられている。1階には小規模多機能と併設されていて家庭的な雰囲気のある事業所です。小規模多機能と連携を取り色々行事を一緒に行っている。理念に掲げている「利用者の心に寄り添いこの地で一緒に生活します」を大切に、利用者1人1人が安全で安心して生活できるよう職員が寄り添い楽しく生活していただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長岡京市の北部、旧西国開道に面した昔ながらの住宅街、竹林のそばの新築の3階建て、小規模多機能型居宅介護事業所を併設した2ユニットのグループホーム、開設満★年になる。屋内はゆったりと広く陽光がよく入り明るい。各階のベランダではプランターに花を植え利用者は日向ぼっこやお茶をしている。食事は3食ともほとんど手作り、おせち料理やひな祭りのちらし寿司も作っている。冬には鍋料理を楽しんでいる。献立にあわせた陶器や漆器の食器を使っている。外食ができないからと仕出し屋かた豪華弁当をとっている。誕生日会やクリスマスは豪華なケーキを楽しむ。入浴は毎日準備し、利用者は入りたい時に入浴、ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。初詣、花見、紅葉狩り等季節ごとのドライブをしている。ベテランの管理者と調理師、美術大学卒のアートのベテラン等、様々な力をもっている職員がチームワークよく、利用者の暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げている「利用者の心に寄り添いこの地で一緒に生活します」を職員と管理者が共有し、実践できている。	管理者、職員が話し合い作成したグループホームの理念「慈しみをもってより添い、その人らしい生活がこの地域で送れるように支えます」をホーム内に掲示、職員は毎週朝礼で唱和している。グループホームが作成したパンフレットに明記、利用者や家族、地域の人に周知を図っている。理念の実践として職員は常に利用者寄り添いその思いを把握しようと努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っているが、新型コロナの影響により、面会自粛であったり、外に出れない状況の為、交流できていない。又地域の行事も中止になっている。	利用者はふだん、旧西国街道や小畑川の土手を散歩、近くの店で買い物している。自治会に加入している。今は自治会や地域の行事がすべて中止になり、参加していない。グループホームの夏祭りやクリスマス会は地域の人は招待せずに開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催しているが、新型コロナの影響により、開催できていない。議事録等は送らせて頂いている。	家族、向日市、地域包括支援センター、自治会長、地域住民等が委員となり、隔月に開催し、会議録を残している。今年5月以降はグループホームからの報告書を委員に郵送しているが、会議は中止している。意見はもらっていない。	コロナ禍のなかでも会議を中止するのではなく、オンライン会議や書面で意見をもらう等の方法で開催することが求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本来であれば、運営推進会議に向日市職員、包括の方が出席あるのですが、新型コロナの影響の為運営推進会を行っていませんが、何かあれば、報告はさせて頂いています。	向日市には必要な報告や連絡をし、連携をとっている。地域ケア会議、乙訓グループホーム連絡会、介護相談員の派遣等、すべて向日市から中止との連絡があり、書面等での意見聴取もないので参加していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・スピーチロック等についてミーティングで再確認し、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束をテーマにした職員研修を年2回以上実施、外部研修にも参加、資料を回覧している。身体拘束廃止委員が身体拘束の現状を日常的に点検している。2人の利用者について夜間のみセンサーを使用しており、家族の同意をとっている。玄関ドア、エレベーター、ユニットドア等、日中はすべて施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を設置し、2か月に1回ミーティングで勉強会をし、職員に周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者・ケアマネが十分な説明を心掛け、質問に答え納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、新型コロナの影響により、面会自粛の為あまり聞けていないが、ご家族が薬等持ってこられたときや電話で意見要望を聞くようにしている。	コロナ禍でも家族は感染対策の後、玄関のエレベーターホールで面会してもらっている。家族には年2回発行の大判の広報誌『すいーとハンズ向日新聞』を郵送している。行事報告と利用者全員の写真を掲載、面会自粛、行事に招待していない中で、家族に安心してもらえるようにしている。一人ひとりの利用者の家族に担当職員が毎月電話をかけたり、利用者のスナップ写真を入れて手紙を書いて、家族に状況を知らせている。家族には喜ばれている。家族からは「安心できる」との声ももらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞いている。	ユニット会議を毎月2回開催、運営や行事の相談、利用者のカンファレンス、内部研修をしている。会議前に職員から議題を募集、会議では職員は積極的に意見を言っている。身体拘束廃止委員、レク委員等と利用者担当をし、職員は役割分担している。職員は自己評価シートを記入、目標を自己申告し管理者と面談、達成に励んでいる。内部研修は計画を立て実施、外部研修は職員に情報を提供、希望者に受講料の援助がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援規定・就業規則がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響により、外部研修に行けていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓GH連絡会も中止となり、他施設との交流も新型コロナの影響によりできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に関わりを持ち少しでも不安をなくすよう心掛け、要望等を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問面談時、契約時、家族様の話を聞き、要望やふあんなことがあれば、しっかり対応し関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人が、その時必要としている支援を1階の小規模多機能と連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることや役割を見極めながら、職員と一緒に洗濯たたみや盛り付けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年はこちらの影響もあり面会自粛が続いている為電話等で情報交換し、取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への支援は出来ていない。	「家に帰りたい」という利用者を連れて職員が家のまわりをドライブしている。	利用者は長い人生の最後の日々を今グループホームで暮らしている。かつて親しくしていた友人や近所付き合いの人、同級生や趣味の友人、どうしているかな、もう一度会いたい。生まれた家、以前住んでいた家、先祖の墓、仕事場、よく見に行った祭りや花見の場所、もう一度行ってみたい。このように会いたい人や行きたい場所への支援をすることが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者皆で行える作業(貼り絵等)、会話、和やかな雰囲気になるよう努力している。時には口論になったりすることもあるが、間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば対応しているが、こちらからの連絡等出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃コミュニケーションを取りながら話の中で、ご本人の意向の把握に努めミーティングで話し合い情報共有している。	契約時に管理者やケアマネジャーが利用者、家族に面談、グループホームの説明をし、利用者の医療や介護の情報を収集している。同時に利用者や家族のグループホームの生活への意向を聴取している。利用者は「さみしいので横にいてほしい」「できることを手伝いたい」等が記録されている。利用者の生活歴の情報は非常に少ない。	長い人生を生きてきた利用者の、グループホームでの暮らしを支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。出身地、父母の仕事、兄弟姉妹等子ども時代のこと、現役の時の仕事や趣味、友人、夫や妻の仕事、子どものこと等の結婚生活、これらの情報を収集して記録し、職員が共有することが求められる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は不足しているが、ご家族、ご本人に話を聞き把握し共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、ミーティングで心身状態、様子等報告し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当、ケアマネ、管理者と1か月に1回モニタリングし3か月に1回カンファレンスを行い話し合い意見を反映し介護計画を作成している。	ケアマネジャーや担当職員が利用者のアセスメントをし、介護計画を作成している。介護計画は身体介護の項目が多く、暮らしの楽しみは「行事参加」「散歩」「洗濯物たたみ」等、どの人にも共通であり、その人だけの楽しみは書いていない。また利用者の意向に添っていない。介護記録は生活のデータと時間ごとの利用者の様子を書いており、介護計画の実施記録はない。モニタリングは介護計画の評価ではない。	介護計画は利用者の意向に添っており、身体介護だけでなく、その人固有の楽しみや項目を入れること、また認知症の周辺症状への対応の項目を入れること、介護記録には介護計画の実施記録を書くこと、モニタリングは介護計画の評価をすること、以上の4点が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ノート、ケア記録に記入し全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや状況に応じて支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響により、外部からも自粛していただいている為ボランティアの受け入れも出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医(4名)に往診に来て頂いている。急変時等医師に相談し、受診したり、臨時に往診に来て頂いている。	協力医療機関のクリニックの医師が利用者のかかりつけ医となり、毎月2回往診に来ている。また訪問看護師が毎週来訪、利用者の体調管理をしている。歯科は訪問歯科医を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護が週1回あり、利用者の状態を伝え、適切なアドバイスをもらっている。何かあれば電話で指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、退院時には面談に行き退院後のケアに繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、事業所で出来ることを十分に説明している。	契約時に利用者と家族に、利用者の重度化や終末期に関する対応について、グループホームとしての方針を説明している。「看取り」はしないという方針である。利用者や家族の意向を聴取している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全員が受けられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害(地震・水害)訓練ができていない。今年は新型コロナの影響により、火災訓練も施設内での訓練しかできていない。	消防署の協力のもと火災についての避難訓練を実施している。地震、風水害、夜間帯の訓練はしていない。備蓄を準備、ハザードマップはスタッフ室に掲示、職員は危険箇所を認識している。災害時に地域の人の協力の依頼はしていない。災害時における法人内相互協力体制の規定はない。	利用者の避難訓練は火災のみならず、地震、風水害、夜間帯についても実施すること、災害時には地域の人の協力をお願いすること、災害時における法人内相互協力体制の規定を作成すること、以上の3点が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけを職員全員が心掛けているが、中には不適切な言葉かけをすることがある為注意しながら、ミーティングでも話し合いはしている。	利用者への声掛けや対応についての基本方針は「気持ちのいい挨拶、丁寧な対応、思いやりの気持」であり、職員研修している。現場でもお互いに注意あっている。日常生活は職員の押し付けでなく、利用者を選択してもらいたいと着たい服、飲み物等を決めてもらっている。ヘヤーは訪問理美容を利用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心掛け、コミュニケーションを取りながら、思いが聞けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日過ごしている中で一人ひとりのペースを把握し希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服をできるだけ本人に選んでもらったり、毎朝洗面所で髪を整えている。訪問理美容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、食事の盛り付けを一緒に行っている。	朝食、昼食と夕食のごはんとみそ汁は職員の手作りである。昼食と夕食の副菜はクックデリから購入、湯煎して盛り付けている。3食とも季節感のある和洋中の献立である。行事食や時にはおやつ等も手作りしている。職員も一緒に数人ずつが食卓を囲み、会話しながら食事を楽しんでいる。食事摂取に課題のある利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を記入、把握し申し送りしている。食事が少ない時は、好きな物等で捕食している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、介助にて、その方に応じた口腔ケアをしている。1日2回しかできない方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、タイミングに合わせ、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	排泄の自立をしている利用者はいない。利用者はリハパンとパットを使用、タイミングを把握している職員が声掛けしている。水分、牛乳、体操等で自然排便を支援している。数人の利用者は下剤を服用している。退院後排泄が改善する利用者は多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、牛乳をすすめたり、フロアで出来るような運動を心掛けている。主治医、訪問看護と連携し、薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴スタイルや「お風呂入りたい」のタイミングに合わせて希望に添えるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯も行っている。	ドアに「ゆ」の暖簾を掛けた浴室は、ゆったりと広く明るい。ユニットバスを据えている。毎週何回と決めずに利用者に声掛けし、「入りたい」の人に支援している。ほとんどの利用者は週3回入っている。入浴拒否の人はいない。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。湯上りの化粧品を持っている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるよう支援しているが、不安で眠れない時は、話を聞き寄り添い眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、副作用を知る努力をしている。受診によって変わる薬があるときも申し送りし理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味、表情を把握し利用者が出来る限り充実した毎日が過ごせるよう工夫し、支援、行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、外出レクは出来ていない。季節行事も出来ていない。	コロナ禍が10月に解禁され、少しずつ外出を支援している。天気が良く、寒くない日は利用者は旧西国街道や小畑川の土手を散歩している。市内の紅葉見物のドライブをしている。利用者から行きたいという希望があれば、職員との個別の外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設で管理している。移動スーパー利用時は一人ひとりの財布を持って買い物していたが、コロナの影響により、移動スーパー利用中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と、電話で話はされている。写真を送ったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵を職員と一緒にフロアに貼っている。ベランダのプランターに花や野菜を植えている。	玄関ポーチにベンチを置き、プランターに花を植え、道行く人を楽しませている。ドアを開けると観葉植物の鉢、右にエレベーターホール、大きな名画を掛けている。奥に向かう廊下沿いにスタッフ室と小規模多機能型居宅支援事業所がある。グループホームは2階と3階にあり、中央にミニキッチン付きの食堂兼居間(ホール)、それを囲んで居室、浴室等があり、同じ構造である。ホールには食卓と椅子、ソファ、大型テレビ等、壁には職員と利用者合作の季節のアート、切り絵、落ち葉で描いた季節の貼り絵等、柔らかい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたいときは居室で過ごされたり、ソファをに座りゆっくり話せる空間もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なるべく自宅で使っていたものを持ってきてもらうようにご家族と相談している。	居室のドア脇に利用者が分かりやすいようにと自作のアートを貼っている。居室は洋間、ベッドとエアコン、壁にフックを設置している。奥は大きなガラス戸、開けるとベランダに出る。室内は明るく、冬も陽光が差し込み暖かく、四季の風景を楽しめる。利用者は寝具、桐の箆筒、テレビ、椅子、机等を持ちこんでいる。壁のフックに吊るした衣類、大きなカレンダーや掛け時計、自作のアート、家族の写真、箆筒の上のかわいいマスコットや飾り等々、利用者らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心して毎日が過ごせるよう床や足元の危険な物は取り除いている。又出来る事、わかることを見極め、すぐには手を出さず寄り添うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に掲げている「利用者の心に寄り添いこの地で一緒に生活します」を職員と管理者が共有し、実践できている。	以下の項目すべて、2階ユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っているが、新型コロナの影響により、面会自粛であったり、外に出れない状況の為、交流できていない。又地域の行事も中止になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催しているが、新型コロナの影響により、開催できていない。議事録等は送らせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本来であれば、運営推進会議に向日市職員、包括の方が出席あるのですが、新型コロナの影響の為運営推進会を行っていませんが、何かあれば、報告はさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・スピーチロック等についてミーティングで再確認し、身体拘束をしないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を設置し、2か月に1回ミーティングで勉強会をし、職員に周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者・ケアマネが十分な説明を心掛け、質問に答え納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、新型コロナの影響により、面会自粛の為あまり聞けていないが、ご家族が薬等持ってこられたときや電話で意見要望を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援規定・就業規則がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナの影響により、外部研修に行けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓GH連絡会も中止となり、他施設との交流も新型コロナの影響によりできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に関わりを持ち少しでも不安をなくすよう心掛け、要望等を傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問面談時、契約時、家族様の話を聞き、要望やふあんなことがあれば、しっかり対応し関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人が、その時必要としている支援を1階の小規模多機能と連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることや役割を見極めながら、職員と一緒に洗濯たたみや盛り付けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年はこちらの影響もあり面会自粛が続いている為電話等で情報交換し、取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への支援は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者皆で行える作業(貼り絵等)、会話、和やかな雰囲気になるよう努力している。時には口論になったりすることもあるが、間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば対応しているが、こちらからの連絡等出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃コミュニケーションを取りながら話の中で、ご本人の意向の把握に努めミーティングで話し合い情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は不足しているが、ご家族、ご本人に話を聞き把握し共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り、ミーティングで心身状態、様子等報告し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当、ケアマネ、管理者と1か月に1回モニタリングし3か月に1回カンファレンスを行い話し合い意見を反映し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ノート、ケア記録に記入し全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズや状況に応じて支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響により、外部からも自粛していただいている為ボランティアの受け入れも出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医(4名)に往診に来て頂いている。急変時等医師に相談し、受診したり、臨時に往診に来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護が週1回あり、利用者の状態を伝え、適切なアドバイスをもらっている。何かあれば電話で指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、退院時には面談に行き退院後のケアに繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、事業所で出来ることを十分に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全員が受けられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害(地震・水害)訓練ができていない。今年には新型コロナの影響により、火災訓練も施設内での訓練しかできていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけを職員全員が心掛けているが、中には不適切な言葉かけをすることがある為注意しながら、ミーティングでも話し合いはしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心掛け、コミュニケーションを取りながら、思いが聞けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日過ごしている中で一人ひとりのペースを把握し希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服をできるだけ本人に選んでもらったり、毎朝洗面所で髪を整えている。訪問理美容も利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、食事の盛り付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を記入、把握し申し送りしている。食事量が少ない時は、好きな物等で捕食している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、介助にて、その方に応じた口腔ケアをしている。1日2回しかできない方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、タイミングに合わせ、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、牛乳をすすめたり、フロアで出来るような運動を心掛けている。主治医、訪問看護と連携し、薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴スタイルや「お風呂入りたい」のタイミングに合わせて希望に添えるようにしている。ゆず湯や菖蒲湯も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるよう支援しているが、不安で眠れない時は、話を聞き寄り添い眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、副作用を知る努力をしている。受診によって変わる薬があるときも申し送りし理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や興味、表情を把握し利用者が出来る限り充実した毎日が過ごせるよう工夫し、支援、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、外出レクは出来ていない。季節行事も出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設で管理している。移動スーパー利用時は一人ひとりの財布を持って買い物していたが、コロナの影響により、移動スーパー利用中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と、電話で話はされている。写真を送ったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた貼り絵を職員と一緒にフロアに貼っている。ベランダのプランターに花や野菜を植えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたいときは居室で過ごされたり、ソファをに座りゆっくり話せる空間もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なるべく自宅で使っていたものを持ってきてもらうようにご家族と相談している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心して毎日が過ごせるよう床や足元の危険な物は取り除いている。又出来る事、わかることを見極め、すぐには手を出さず寄り添うようにしている。		